

平成24年度臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：保存科								
研究期間：平成20年9月30日～平成24年5月31日								
研究課題名：難治性根尖性歯周炎に関わるバイオフィルムの抑制法と科学的診断法の開発								
<p>研究課題の概要及び成果： 大阪大学歯学部附属病院保存科を受診した根尖性歯周炎罹患患者のうち、本研究に関して同意の得られた患者に術前診査を行い、バイオフィルム試料を採取した。難治性根尖性歯周炎と診断された15歯の抜去歯、歯根端切除術により切断された13歯片、ならびに根尖孔外に溢出したガッタパーチャポイント2本から採取したバイオフィルムを根尖孔外のバイオフィルム試料（計30試料）とした。難治性根尖性歯周炎の診断基準は、再感染根管治療を行っても臨床症状の改善、あるいはX線的根尖病巣の縮小傾向が認められないものとし、破折あるいは根尖に至る歯周ポケットを有する歯は除外した。30試料から検出された細菌は、<i>Uncultured bacterium</i> (30試料)、<i>Porphyromonas gingivalis</i> (18試料)、<i>Prevotella sp.</i> (17試料)、<i>Bacteroides sp.</i> (17試料)、<i>Tannerella forsythia</i> (16試料)、<i>Fusobacterium nucleatum</i> (14試料)、<i>Peptostreptococcus sp.</i> (11試料)、<i>Eubacterium sp.</i> (10試料)であった。また、13試料からは <i>P. gingivalis</i> と <i>T. forsythia</i> が共に検出された。<i>Prevotella sp.</i> が根尖孔外から検出された症例では、自発痛の既往、発赤・腫脹の既往、打診痛が高い頻度で発現した。また、<i>Bacteroides sp.</i> では自発痛の既往が高頻度でみられた。非難治性根尖性歯周炎歯の根管内試料（計27試料）から検出された細菌は、順に <i>Uncultured bacterium</i> (27試料)、<i>Prevotella sp.</i> (13試料)、<i>Eubacterium sp.</i> (12試料)、<i>P. gingivalis</i> (11試料)、<i>Slackia exigua</i>(旧 <i>Eubacterium exiguum</i>) (11試料)、<i>Bacteroides sp.</i> (10試料)であった。</p> <p>難治症例では非難治症例に比べ、排膿の既往、腫脹・発赤の既往、瘻孔と発赤・腫脹の出現頻度が高く、<i>P. gingivalis</i> と <i>T. forsythia</i> は根尖孔外から同時に高頻度（13/30）で検出され、これらの共存が、根尖性歯周炎の難治化に関連していることが明らかとなった。</p>								
上記概要・成果に関連する図表等								
	自発痛の既往	排膿の既往	腫脹・発赤の既往	RCTの既往	打診痛+	fistel+	腫脹・発赤+	試料数
根尖孔外	38%	72%	82%	100%	43%	76%	77%	n=30
根管内	50%	33%	44%	59%	59%	30%	30%	n=27